

# 青梅アート・ジャム2007展

2007年4月3日(火)~15日(日)

Exhibition Site : **Ome Mitake Area**  
会場

## 河鹿園 KAJIKAEN

心なごむ懐かしさと時が磨く洗練の佇まい



## 澤乃井園 SAWANOIEN

銘酒「澤乃井」のエッセンスあふれる清流ガーデン



## いもうとや IMOUTOYA

玉堂美術館に隣接する美味探求処



## みたけ歩楽里道 MITAKE BURARIDO

御岳地区観光の新情報発信拠点



## 煉瓦堂 朱とんぼ RENGADO AKATONBO

アンティークレンガの魅力を伝える悠遊空間



## ギャラリー 繭蔵 GALLERY MAYU-GURA

食と手仕事が出会う築90年の石蔵



## SPECIAL THANKS

### 施設提供

河鹿園  
澤乃井園  
いもうとや  
みたけ歩楽里道  
煉瓦堂 朱とんぼ  
ギャラリー 繭蔵

### 後援

在日カナダ大使館  
青梅市  
青梅市観光協会  
青梅市御岳観光協会  
玉堂美術館  
櫛かんざし美術館  
NPO文化交流機構「円座」

### 協力

小澤酒造株式会社  
宗建寺  
勝仙閣  
有限会社 タイト  
有限会社 繭蔵

### 記録誌制作

water-path  
デザイン 庭崎正純  
DTP 坂内ひろゆき  
印刷 株式会社 グラフィック

## 青梅アート・ジャム事務局

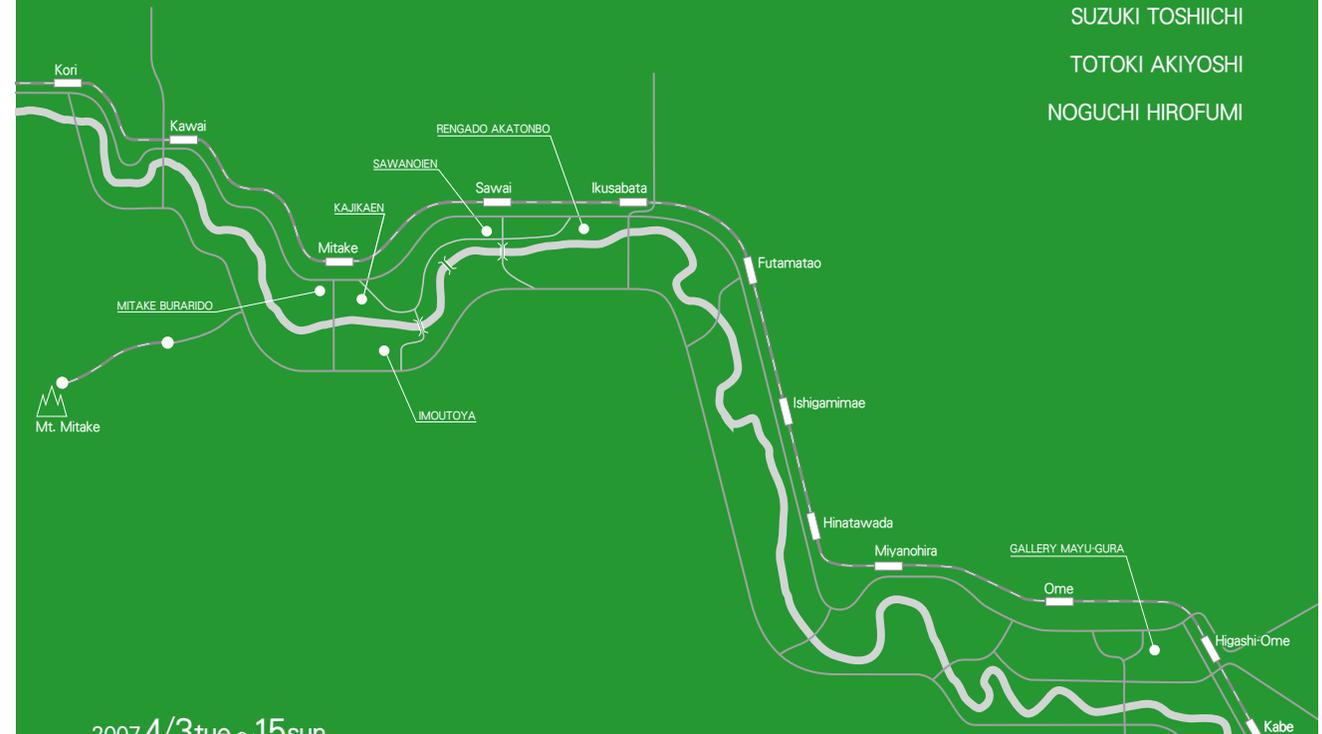
〒198-0044 東京都青梅市西分町3-127  
TEL 0428-20-4555 FAX 0428-20-4566



2007 CONCEPT  
**ON THE PATH**

## OME ART JAM PROJECT 2007 EXHIBITION

ITO KOJIRO  
INOUE ATSUSHI  
UNNO JIRO  
SUGIMOTO HIROSHI  
SUZUKI TOSHIICHI  
TOTOKI AKIYOSHI  
NOGUCHI HIROFUMI



2007.4/3 tue.~15 sun.  
Exhibition Site : **Ome Mitake Area**

KAJIKAEN  
SAWANOIEN  
IMOUTOYA  
MITAKE BURARIDO  
RENGADO AKATONBO  
+ GALLERY MAYU-GURA

青梅アート・ジャム2007  
コンセプト

## 流れのなかで

水と風、地と人と

深い緑に包まれた 清冽な水の流れ、

地をなでる風のやすらぎ——。

飽くことのない自然の営みは、

地を育み、人を育んだ。

その地に魅せられる人の流れは

止むことがなかった。

ここには人を引きつけずにはおかない

緊張と緩慢がある。

感性を研ぐ

作家たちにとってはなおのこと。

この地を愛した

先達たちの想いの断片を見据えつつ、

時を超え、ジャンルを越えて

新たな創作の意欲のただ中に在る

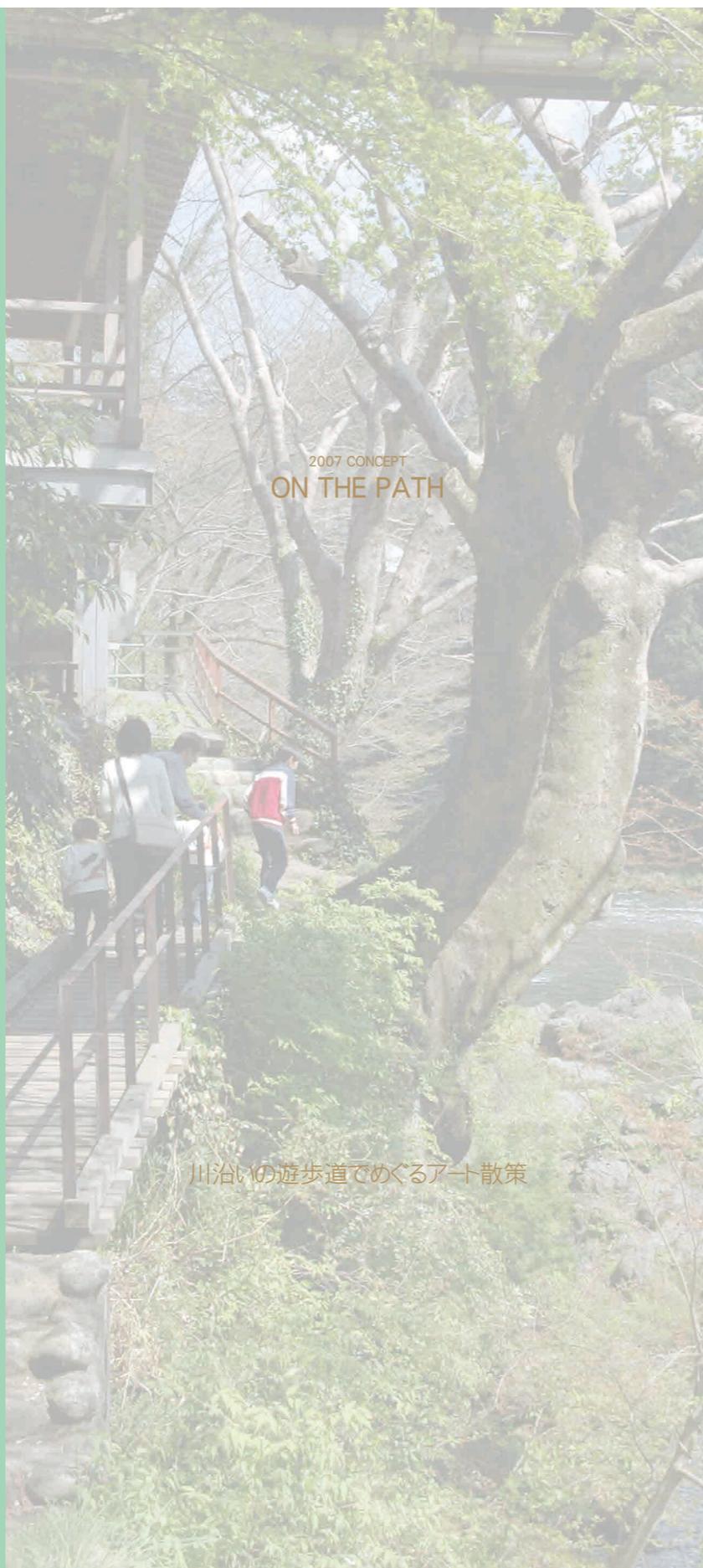
作家たちが集う。

時が流れても、

変わることのない

自然と人の営みの中でこそ。

アートがこの地でできること——。



2007 CONCEPT  
ON THE PATH

川沿いの遊歩道でめぐるアート散策

## 市民と一体化したアートイベントを

### ■10年後への始めの一步

自然豊かな創作環境を求めて 青梅周辺に集まった作家・表現者が中心になって展開するアートイベントの新しい試み「青梅アート・ジャム2007」を、4月3日から15日にかけて青梅・御岳地区を中心に開催。同地区に点在する歴史と由緒ある施設や地区の新しい活性を予感させる施設の協力を得ての作品展、またワークショップやイト・インなどを通じて、予想を超える多くの人々とアートの楽しみを分かち合うことができました。

施設提供を快諾され、多大な協力をいただいた各施設の皆様をはじめ、青梅市御岳観光協会、青梅市観光協会など関係者の皆様、また協賛・後援をいただいた団体・企業の皆様、運営を支えてくださった多くのボランティアスタッフに、ここにあらためて心より感謝申し上げます。今回の試みが10年後、「あの時が始まりだった」と深い感慨をもって振り返ることが出来ることを願いつつ、より広範囲にご理解をいただけるような連続性のあるアートイベントを実現したいと考えています。

### ■「青梅アート・ジャム」が目指すのは

「青梅アート・ジャム」は、ジャンルを超え、世代を越えてより多くの人が集う参加型のアートイベントを目指しています。作家の創作現場で直に交流してもらおう公開制作やオープンスタジオ、作品制作に挑戦してもらおうワークショップ、作品解説や質疑応答を盛り込んだギャラリートークや講演、市民参加のコンクールなどを開催し、多くの人々にアートと触れ合う楽しさを実感して欲しいと願っています。アートが身近になることは、豊かな心を希求する感性を目覚めさせ、日本文化の継承と発展を生み出す新たな原動力となります。ひいては新しい表現者を育て、アートを受容する人々の裾野を広げてゆくことにつながってゆくものと確信しています。

また、積極的に国際交流の場へ出向き、さらなる交流を深めることによって日本文化は世界と結んでゆき、新しい姿を確立してゆくのではないのでしょうか。

### ■2008展の可能性

私は2004年9月から11月にカナダ・ヴィクトリア美術館で個展を開く機会を得、同時に文化庁文化交流使としてカナダ各地で「日本文化紹介」の講演、ワークショップ、公開制作を行った折に同美術館が毎年開催する「ペイント・イン」を知りました。翌年には招待作家としてこれに参加しました。100人の

アーティストによる一日のイベントに3万人もの人が集まります。会場となったブリティッシュコロンビア州・ビクトリア市は、人口30万人ほどの豊かな自然に包まれた美しい小都市です。そこにこれだけの作家やギャラリー参加者が訪れることに衝撃とともに大きな感動を覚えました。このような、市民と一体化したアートイベントを同様に自然豊かな青梅に立ち上げることはできないかと考え、青梅在住の作家たちに呼びかけたことが「青梅アート・ジャム」の始まりです。

翌年には国際交流基金の助成を得て、4人の青梅アート・ジャム作家と共に「ペイント・イン」に特別招待作家として参加しました。イベント前後の日程においてはヴァンクーバー大学等で「日本文化の紹介」をテーマに木彫、木版画、鍛金、漆芸、日本画のワークショップ、レクチャー、公開制作を行いました。この「ペイント・イン」への参加実績から、「青梅アート・ジャム2008」にはカナダ大使館等の協力を得てカナダから4人のアーティストを招聘し、文化交流が実現することになりました。

海外アーティスト参加のこの開催においては作家と市民が交流できるよう、カナダのアーティストには青梅市内に滞在してもらい、作品の展示、共同制作を行い、児童・生徒のみならずには「英語で行う美術の授業」など出会いの場も生まれるようプログラムを構成する予定です。国内参加作家・表現者の枠も拡大し、総合性の高まったアートイベントとして開催することになりました。

### ■文化の原点を見つめて

「青梅アート・ジャム」は、アートが文化の一翼を担っていることを自覚し、表現を通しての日本文化の再認識と裾野の拡大をこころざすものであります。独自の自然や生活そして郷土と密接な関わりのなかで育まれてきたのが日本文化です。しかし環境・様式・意識の変化は著しく、衰退か発展かの岐路にたたされています。今やらなければならないことは何か、やっておかなければならないことは何か。日本文化の継承と発展のために直面している課題は、こと創作者だけに課せられたものではなく、文化を受容する社会全体でも取り組まなければならない課題なのではないでしょうか。

私たち参加作家は、創作・表現の分野はそれぞれ異なるものの、自然・生活・郷土の恵みが創作の原点にあるという意識を共有し、文化の原点を見つめてゆきたいと考えています。私たちは、日本の文化が抱えるさまざまな課題を考えてゆくひとつの形として、アートを通して人々が交流し、文化を共に考える場が創出されることを願ってやみません。

青梅アート・ジャム実行委員会 杉本 洋

OME ART JAM  
2007 EXHIBITION  
ARTISTS  
参加作家

Wooden  
木彫  
Sculpture

伊藤 光治郎 ITO KOJIRO

1945年 山形市生まれ  
1993年 創型会同人になる  
1995年 創型会文部大臣奨励賞受賞  
2002年 創型会賞受賞  
現在 創型会運営委員  
池袋西武コミュニティーカレッジ 仏像彫刻講師  
朝日カルチャー立川 仏像彫刻講師 他



木版画  
Wood  
Block Print

井上 厚 INOUE ATSUSHI

1986年 東京芸術大学大学院 版画専攻修了  
1987年 第17回リュブリアナ国際版画ビエンナーレ(ユーゴスラビア)  
1989年 第4回中華民国国際版画ビエンナーレ(台北市立美術館)『佳作賞』  
1990年 現代の版画1990(渋谷区立松濤美術館)  
1991年 アパディーン・インターナショナル ユース フェスティバル(スコットランド)  
1994年 文化庁芸術インターナショナル研修  
2002年 第2回山本鼎版画大賞展(長野)  
2003年 第3回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ(岐阜)『奨励賞受賞』  
個展 渋谷西武美術画廊(渋谷西武B館)、福原画廊(銀座)  
アートギャラリータピエス(神戸)、楓画廊(新潟)



Japanese  
Style  
日本画  
Painting

海野 次郎 UNNO JIRO

1952年 東京都に生まれる  
1975年 京都市立芸術大学日本画科卒業  
1986年 山の変化と自然を見るために奥多摩町に転居  
画房「曇華庵」を開き、個展活動を開始する。



WAKU WAKU WORKSHOP

「青梅アート・ジャム2007」の会期中の4月14日、快晴に恵まれたこの日、青梅市軍畑の「煉瓦堂 朱とんぼ」を会場に、「アートで遊ぼう わくわくワークショップ」を開催し、多くの参加者でにぎわった。



木彫の伊藤光治郎は公開制作を行い、丸太に作品としての命が吹き込まれる過程を実演し、木版画の井上厚は多色刷りの紹介と刷りの体験を通して木版の豊かさを教えた。

また、日本画の海野次郎はにじみやかすれの発生する水墨で写生を試みることによって、視覚の多様性・流動性を再



認識させ、同じく日本画の杉本洋は、川原で様々な表情を見せる水を自由に写生することで、描くことの楽しさと自在さを伝えた。

陶芸の鈴木寿一は、粘土による器の制作を通じて人間の手の素晴らしさをあらためて実感させ、漆工芸の十時啓悦のブースでは、木工ろくろで器を挽くところから漆を塗るまでを実習して、漆



器の制作過程を学ぶことができた。鍛金の野口裕史は、湯床吹きという伝統的な手法で銅の粒を作り、タガネで図案を刻印してペンダントを制作する工程と一緒に、参加者たちは金属加工の不思議さや面白さに興味深々。

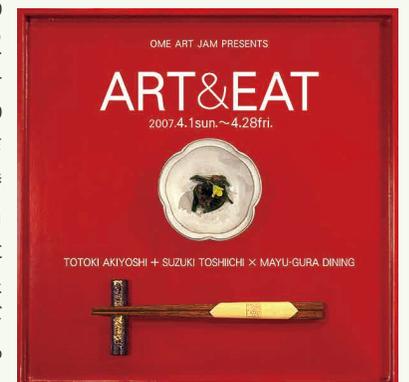
作家と市民がふれあうこうした試みは、2008年展に受け継がれる。



ART & EAT

会期中蔵蔵1Fダイニングでは、青梅アート・ジャム連動企画として、陶芸・鈴木寿一と漆器・十時啓悦の作品と蔵蔵の創作料理のコラボレーション「ART & EAT」を開催した。

蔵蔵の「ふだんのごちそう」という気取りのないコンセプトと、このイート・インのために創作した作家の上質で使い勝手の良い器との出会いは、食欲を満たすだけではなく根源的な「食」の喜びを体感してもらえる端緒となった。





## 杉本 洋 SUGIMOTO HIROSHI

1951年 東京都生まれ  
 1977年 東京芸術大学大学院日本画科修了  
 1989年 出雲大社大分分祠神殿襖絵制作  
 1993年 秋篠宮家扇面制作  
 1994年 地藏院本堂天井画制作(あきる野市)  
 1995年 清岩院本堂天井画制作(福生市)  
 1999年 京濱伏見稲荷神社参集殿壁画制作  
 2004年 文化庁文化交流使に指名される  
 個展 ヴィクトリア アート ギャラリー/カナダ

Japanese  
Style  
日本画  
Painting

## Urushi Ware 木漆工芸



## 十時 啓悦 TOTOKI AKIYOSHI

1950年 大阪府生まれ  
 1972年 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業  
 1974年 東京芸術大学大学院美術研究科漆芸修了  
 1977年 沢井、小澤酒造母家漆塗り 直後に青梅にて独立  
 '77年、'81年、日本クラフト展優秀賞受賞  
 1984年 白州正子邸家具製作  
 1986年 第26回伝統工芸新作展奨励賞受賞  
 1988年 第1回兵庫ウッドクラフトコンペ大賞受賞  
 現在 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科教授  
 作品収蔵 東京国立近代美術館、兵庫県年輪の里記念館など  
 西麻布、ルベインショップ常設

## 鈴木 寿一 SUZUKI TOSHIICHI

1963年 秋田県生まれ  
 1990年 東京芸術大学大学院工芸科陶芸専攻修了  
 1996年 青梅市日向和田に築窯 独立  
 現在 明星大学、女子美術大学、横浜美術短期大学非常勤講師  
 日の出陶房講師、陶芸教室「有楽斎」主任講師  
 個展 日本橋三越、青山桃林堂、Potter's pot、梅が丘アートセンター、  
 工芸えんどう、青梅クラフト館 他  
 作品収蔵 中国宜興陶器博物館

## Pottery 陶芸



## Metal 鍛金 Hammering

## 野口 裕史 NOGUCHI HIROFUMI

1950年 山口県生まれ  
 1974年 東京芸術大学美術学部工芸科卒業  
 卒業制作 安宅賞  
 1976年 東京芸術大学大学院美術研究科鍛金修了  
 1974年 日展(以後4回出展)  
 個展・グループ展多数発表  
 現在 多摩美術大学教授 工芸学科金属プログラム指導



## 2005→2006 青梅アート・ジャム

### ■'05年9月 青梅アート・ジャム立ち上げ

2005年9月10日、「アートが街にできることはないだろうか」という思いを共有した青梅在住の作家が集まり、青梅アート・ジャムを立ち上げた。「ジャム」という言葉はぎゅぎゅ詰め込むという意味だが、これは分野を超えたアートの集まりを創りたいという思いと、作家の側だけでなくアートを受容する多くの人々ともアートを介した結びつきを築きたいという願いが込められている。

### ■'06年5月 青梅アート・ジャム7人の作家展

2006年5月18日～28日、青梅・奥多摩地区在住の作家による、地元での初の合同展として、青梅アート・ジャム2006展をりそな銀行河辺支店特設ホールで開催した。

### ■'06年7月 カナダ ペイント・イン

日本画家杉本洋は2004年、カナダの美術館で開催された個展で滞在したB.C州のヴィクトリアは自然と文化、町の大きさも青梅に似ていることを実感した。



イベント「ペイント・イン」は、多くの観客を動員するものであった。喜びほど充実したもので、このシチュエーションを見出せないものかと考え、青梅の視察を兼ねた参加の了承を、特別招待作家として迎え

7月「国際交流基金」の支援を受け、伊藤、井上、杉本、十時、野口の5人の作家による、ヴァンクーバー-U.B.C.における日本文化紹介のためのワークショップ、レクチャー実施と、ビクトリアでの「ペイント・イン」参加のための

派遣が実現した。

現地ではバンクーバーでの交流会や、「ペイント・イン」会場で多くの作家や市民と意見交換を行い、「青梅アート・ジャム」の活動に共感する作家もあった。今後ますます両国間の作家が交流を深めることで、いまアートが何を模索すべきなのか、その可能性に思いを馳せた一週間の滞在だった。



### ■'06年11月 ART & EAT 作家と食のコラボレーション

漆器・十時啓悦と陶芸・鈴木寿一の器で、Dining&Gallery 繭蔵の創作料理を提供する食のワークショップを開催。良質な器の使い心地を体験できる参加型イベントの初の試み。

### ■'06年12月 青梅アート・ジャム7人の作家小品展

2006年12月12日～26日、青梅の街に点在する3つの会場、ギャラリー柏、ギャラリー門、ギャラリー繭蔵にて、青梅アート・ジャムの作家たちによる同時開催の展覧会を開催。

そして、2008へ